

2020年1月21日
東京製鐵株式会社

「CDP2019 気候変動」において国内鉄鋼メーカーで初めてとなる
最高評価「気候変動 A リスト」を獲得

当社は、このたび国際的な NGO 団体である CDP(※1)による「CDP2019 気候変動」の調査において、日本の鉄鋼メーカーで初めてかつ唯一となる、最高評価の「気候変動 A リスト」を獲得しました。



2019年度は、運用資産規模が96兆米ドルにのぼる525超の機関投資家が、CDPのプラットフォームを通じて、世界約8,400社に対して質問書を送付し、179社が(日本企業38社)が「気候変動 A リスト」企業に認定されました。

1/20(月)に開催された「2019年度 CDP 気候変動日本報告会」において A リスト企業が発表され、当社からは取締役社長の西本利一が出席し、長期環境ビジョン「Tokyo Steel EcoVision 2050」など、環境に対する取組みについてのスピーチを行いました。

当社は、気候変動問題を重要な経営課題の一つと位置付けており、長期環境ビジョンである「Tokyo Steel EcoVision 2050」を掲げ、これからも地球環境に優しい電炉鋼材の特徴を生かし、さらなる企業価値の向上と、持続可能な社会の実現に向けた取組みを継続してまいります。

※1 CDP (旧 Carbon Disclosure Project)

企業や政府の温室効果ガスの排出削減、水資源・森林保全を促進する国際的な非営利組織。世界の企業や都市に対して質問書を送付し、その回答をもとに環境問題にどのように取り組んでいるのかを調査・評価・開示している。

・CDP 気候変動 A リストおよび回答企業のスコアは、以下の URL よりご覧になれます。

<https://www.cdp.net/en/scores>

・東京製鐵「Tokyo Steel EcoVision 2050」:

<http://www.tokyosteel.co.jp/eco/vision/>

●1/20(月)「2019 年度 CDP 気候変動日本報告会」において当社取締役社長 西本利一が行ったスピーチの全文は以下のとおりです。

「東京製鐵の西本です。今日、この場に立てたことを誇りに思うと共に、我々の信じる道は間違っていないという確信を、新たにしております。皆様ご存知のように、鉄鋼業は、全産業の中で最も多い CO2 を排出しています。故に、我々こそが、気候変動にしっかりと向き合わなければならないという思いで、日々生産活動を続けております。

当社は、「鉄スクラップ」を電気炉で溶かし、各種鉄鋼製品を造っております。鉄スクラップは、ビルの解体や廃自動車など、社会の様々な場面から発生します。「電炉法」による製造時の CO2 排出量は、製品 1 トン当たり 0.5 トンです。「高炉法」が、2.0 トン排出すると言われておりますので、電炉は、高炉の僅か 4 分の 1 でしかありません。故に、2050 年をターゲットに低炭素化を実現するには、高炉法から電炉法へのチェンジしかない、この道しかない、我々は確信を持っております。鉄鋼業の一員でありながら、この度、国内鉄鋼業初の A リスト入りを果たせたことは、電炉に対する高い期待を示して頂いたものと思ひ、我々の大きな自信となりました。

当社は、環境問題に主体的に向き合うため、大きな目標を掲げております。「Tokyo Steel EcoVision 2050」です。昨年の生産量は約 280 万トンでしたが、2050 年には 1,000 万トンまで拡大させ、さらに、電力の再エネ化と省エネによって、現在、製品 1 トン当たり 0.5 トンの CO2 排出量を 0.1 トンまで減らすことで、社会全体では、1,900 万トンの CO2 削減を目指します。ビジョン作成の過程では、「鉄鋼業の電炉化」を提言されている、三菱総研理事長の小宮山宏先生をはじめ、多くの皆様から応援を頂きました。我が社に寄せて頂く期待の大きさに、改めて気を引き締めたところです。

資源循環を進める上でも、電炉はその要を担うと自負しております。地球上には大量の鉄鋼製品が蓄積され、そこから発生する鉄スクラップは、2050 年には 13 億トン。鉄スクラップを主原料とした「電炉法」による鉄鋼生産は全体の 50%を超えると予想されています。しかし、我が国の電炉比率は僅か 25%程度。世界の平均以下に留まっています。その一方で、我が国は年間 800 万トンもの鉄スクラップを海外に輸出しています。みずみず CO2 削減のチャンスを逃していることとなります。

こうした現状を打破するためにも、我々の生産拡大が不可欠です。当社は、今回の「A リスト」を皆様からの激励と受け止め、ご期待に応えられるように、取り組みを一層加速させて参ります。そして、目標はさらに大きく「低炭素」に留らず、「脱炭素」を実現できるよう、これからも、自らの信じる道を進んで参ります。本日はこのような貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。深く御礼を申し上げます。」

●スピーチを行う当社取締役社長 西本利一



●記念撮影の様子

